



学校だより

新潟市立中之口東小学校 2026. 1. 23
第393号 児童数110名
ホームページ
<https://www.kiranico.jp/>



自己満足

校長 小森 康貴

誰もが周りの人に認められたい、称賛されたいといった承認欲求をもっています。それは大人も子どもも同じです。周りの人から承認されることで自信がつき、自己肯定感を高めます。それが次への意欲となって成長していきます。

私が教師になったばかりのころ、先輩の先生に、ほめ方には下記のようなレベルがあると教えてもらいました。

レベル1 担任	レベル2 担任以外の別の大人	レベル3 他の子ども
---------	----------------	------------

学級で子どもがよい行いをしたとき、担任が直接ほめるよりも、保護者や地域の方などの担任ではない大人にほめられた方が子どもは喜び、それ以上に、学級の他の子どもにほめられると喜びが増すというのです。確かにその通りだと思います。そのため、私に限らず多くの教師は、子ども同士が称賛し合うような機会を意図的に設定します。

しかし、私は、もう一つ上のレベルがあると思います。それは「レベル4 自分」です。周りの人にほめられなくても、認められなくても、自分がよいと思ったことを自分自身の善意に従って行うことです。これほどレベルが高く、素晴らしいことはありません。

以前、あるミュージシャンが、故郷が地震に襲われたとき、ひっそりと災害復興のボランティアに参加しているという記事を見たことがあります。多くの芸能人やミュージシャンが「〇〇円寄付しました」「被災者のために現地へ行きました」とアピールする中、そういったことを全くせずひっそりとボランティアする姿に感動しました。

私は、自己満足という言葉が好きです。自己満足と聞くと「自分勝手」「自分さえよければよい」というイメージがありますが、そういう意味ではありません。私がイメージする自己満足とは、

他人の評価を気にすることなく、自分のものさしで努力・判断・評価すること

です。そこには、周りからの称賛や損得はありません。自分が満足できるかどうかで行動します。

私は、自己満足で行動するように日々心がけていますが、残念ながら、まだまだ承認欲求があり、損得で行動しているところがあります。自己満足で行動するのはとても難しいです。

どうすれば、自己満足で行動できるようになるのでしょうか。おそらく、小さいころからたくさんほめられ、認められ、愛情を注がれて、十分に満たされるとできるようになるのではないかと思います。

修学旅行の引率でフェリーに乗っているとき、6年生の男子児童が、誰もいないところでひっそりと6年生全員の靴を揃えている姿を見ました。きっと、この男子児童は、たくさんの愛情を注がれ十分満たされているのだと思います。素晴らしい姿でした。